107：*1071*：*502*：*601*：*604*（気象学史；研究連絡会；データレスキュー；モンスーンアジア；台風）

第9回気象学史研究会「モンスーンアジアの気象データレスキュー」をオンライン開催

気象学史研究連絡会

第9回気象学史研究会「モンスーンアジアの気象データレスキュー」を日本気象学会2021年度春季大会（オンライン開催）会期中の5月19日（水）にオンライン（リアルタイム形式）で開催した．約90名と今回も多くの参加があった．

今回は気象学分野における「データレスキュー」の活動を取り上げた．過去にさかのぼり，紙やマイクロフィルムのまま保存されている観測記録を劣化・廃棄・紛失から「救出」し，デジタルデータとして保存・整備していくこの活動は現在世界各地で進められており，日本でも，国内のみならず，国際的協力で世界各地を対象に行われ，その成果が気候変動などの研究に活用されている（財城 2011）．長期連続した均質な観測データを得るためには，地域の統治体制や気象機関，観測手法・技術の変遷など多くの障壁があり，ここに気象学史的な意義もあるものと考えられる．本研究会では，アジア東部から南部にかけてのモンスーンアジアと呼ばれる地域を中心に，これらの活動に精力的に取り組まれてきたお二方にご講演いただいた（第1図）．

久保田尚之氏（北海道大学）は「台風関連データのデータレスキューと観測の歴史的背景」と題して講演した．西部太平洋各国気象局を訪問して，保管されている台風に関する紙資料を収集して台風の位置情報をデジタル化し，比較可能な長期のデータを作成して，これらを元にして調べられた19世紀中頃以降の台風の変動の実態を報告した．データの収集範囲が船舶などさらに広がっていることも紹介された．

松本　淳氏（東京都立大学）は「ACRE-Japanでのアジアモンスーン域におけるデータレスキュー」と題して，データレスキューのための国際的な研究組織であるACRE（Atmospheric Circulation Reconstruction over the Earth）の日本での取り組みであるACRE-Japanの活動について講演した．日本のみならず旧英領インド，中国，東南アジア諸国などアジアモンスーン域について紙媒体等の気象データの保全・画像化・数値化が取り組まれ，200年以上にわたる長期再解析データの作成等が進められていることが紹介された．原簿や自記紙など膨大な未活用の資料があること，画像化・数値化・保存・公開などにおいて多くの課題を抱えていることも報告された．

講演後の質疑応答では多くの質問・議論がなされた．旧日本軍などのデータについては，破棄などにより終戦時までに大量に消失したとされるが，探索が世界各地で続けられ，発見が相次ぎレスキューされていることが紹介された．膨大な紙媒体データが未活用のまま国内にも各国にも残っていることが確認されているが，それを保全し活用するためには多大な資源を継続的に確保する必要があり，多くの困難があることが報告された．印刷された数値をデジタル化するのみならず，観測値以外の（古）文書等を活用しその記述から過去の気象や災害を再現すること，社会学など文系

第1図　第9回気象学史研究会（2021年5月19日）にて講演された久保田尚之氏（a）と松本淳氏（b）．ウェブ会議ツールZoomのオンライン画面．

© 2021　日本気象学会

諸科学との連携など多くの可能性があり，研究プロジェクトで模索が続けられていることも紹介された．

コンビーナと司会は研究連絡会世話人の藤部文昭（東京都立大学）が務めた．

本研究会も前2回に続きオンライン開催となった．今回は気象学史研究会としては初めて，事後に研究会動画を公開した．これまでのアンケートでも多くの方から要望されていたもので，当日参加いただけなかった方にも研究会の雰囲気を紹介することができたと考える．公開をご了承くださった久保田氏・松本氏および質疑応答ご参加の各位に御礼申し上げる．

当日の質疑応答は，今回は原則チャット（文字入力を通して行う無声のコミュニケーション）でのみ受け付け，講演者が口頭で答えることとした．これもアンケート等でいただいたご意見・ご提言を参考にした．オンラインでの口頭質問は直接顔を合わせていないせいか言葉が多くなり時間を要する印象がある．逆に論をたたかわせるとなると文字交換が効率的・効果的とも言えない．アンケートは今回も実施したが，このような質疑応答形式をとったことについて特段の意見はいただいていない．実は他の学会では質疑応答時間を十分確保したうえで，チャットでの質問・コメントを禁止としているところもある．質疑応答に期待するものの違いであろうか．より充実した研究会になるような運営進行方法を今後も検討していく必要がある．

最後にご講演いただいた久保田氏・松本氏，前回に続きボランティアとして運営にご協力くださった遠藤正智氏・岸　誠之助氏（順不同）の各位に厚く御礼申し上げる．本研究会の開催にあたっては気象学会の研究連絡会等活動補助金の支給を受けた．

参　考　文　献

財城真寿美，2011：データレスキュー．天気，58，173-175.